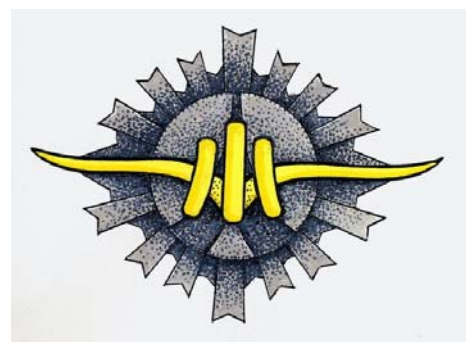


東通村立東通小学校 平成30年度 学校経営の方針

I はじめに

「経営」とは単なる理念や理想ではなく、実践行動を意味する言葉である。もう一步進んで言えば、「成果」を上げるべく力を尽くす営みである。したがって、「学校経営」は要請に応える実践、その実践の積み上げであると言える。



東通村内の小学校が1つに統合し、今年度、東通小学校として開校10周年という節目を迎えた。

東通小学校の校章に込められた、夢や希望に満ち溢れ、伸び伸びと逞しく大志を抱いて成長してほしいとの願いは、地域や本校の卒業生、勤務した職員の願いとして、今日まで脈々と受け継がれている。

私たち東通小学校の職員は、この願いを受け継ぐ担い手であることを自覚し、子どもの未来につながる仕事に携わっているという誇りを持ち、更なる成果・向上を目指して教育活動の実践に努めていきたい。

II 「学校経営」の「基本方針」

1 はじめに

校長と教頭の両方が異動した29年度同様、30年度も「東通学園教育デザイン公開検証授業」等、節目となる行事や教育活動が控えており、こうした状況の場合、私たちは原点に戻り、シンプルに考えることが求められる。

そこで、29年度に引き続き、以下の3点を「学校経営」の「重点」とする。

- (1) コミュニケーションを図る（職場のコミュニケーションの基本は「報告」「連絡」「相談」「確認」である）。
- (2) 本質を見抜く力をもつ（全ての教育活動は「学校教育目標」＝「努力目標」の「具現」である）。
- (3) 今やるべきこと、今だからできること、思慮深く優先順位をつかむ（常に検討と修正・改善の視点をもつ）。

2 教育理念〈29年度設定〉

本校職員は、「子どもは愛情によって育ち、信頼によって自立し、ほめることによって伸びる」という信念のもと、職員一人一人の創意と英知を集め、「ともに育つ・ともに育てる」を基調に、子どもが自らの力で将来を切り拓いていくために必要な「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育成する。

3 「学校経営」の「基本理念」〈29年度設定〉

本校に通う全ての子どもに、自分の生き方を考え、自分の力で将来を切り拓くために必要な「基礎学力」「強い意志」「健康な体」、そして「自己肯定感」を育てていきたい。

4 学校づくりのスローガン〈29年度設定〉

目指す学校づくりを推進するために、子ども、職員、保護者、地域の方々が目指す方向を明確に意識できるよう、「学校づくりのスローガン」を設定する。

みんな（子どもと職員）が期待を胸に登校（出勤）し、充実感をもって下校（退勤）する学校

5 学校教育目標〈20年度設定〉

知

よく考える子

徳

思いやりのある子

体

たくましい子

学校教育目標の具現を目指し



6 努力目標＝重点目標〈30年度設定〉

知

より高い目標に向かい、根気強く取り組み、学習した内容を確実に身に付けよう。

徳

時や場を考え、進んで決まりを守り、けじめある生活をしよう。

体

より高い目標に向かい、体力づくりに進んで取り組み、強い気持ちと健康な体をつくろう。

努力目標＝重点目標の具現を目指し



7 30年度の「中期経営目標」と「短期経営目標」・「具体的方策」と「成果指標」

多忙感は避けられないが、達成感によって和らげることができると信じ、全職員が課題と危機意識を共有し、ベクトルを統一して推進していきましょう！

(1) 中期経営目標 1 「学力の向上」

基礎・基本の定着だけに縛られていても、結果が得られていないので、指導の切り口を変えましょう！

短期経営目標 1 : 子どもにより高い目標をもたせ、それを達成できる授業の仕掛けづくりをする。そして、「わかる・できる」という学びの楽しさ、学ぶ喜びを味わわせ、学びの質を高める。

- ①具体的方策 1 : 算数は、全学級TT（1学級2人の指導者で授業を展開）による少人数教育を実施する。
- ②具体的方策 2 : 社会、理科、音楽は教科担任制を実施する。
- ③具体的方策 3 : 3学年以上は、算数で基礎・基本から活用まで載っている共通の問題集を活用する。
- ④具体的方策 4 : 全学年、国語、社会、算数、理科で基礎・基本から思考力・判断力・表現力までを評価できる問題と、より深い思考力・判断力・表現力を評価できる問題が載っている共通のテストを活用する。
- ⑤具体的方策 5 : 年間3回（7月頃、11月頃、2月頃）、「校内漢字大会」を実施する。
- ⑥具体的方策 6 : 学びに向かう姿勢を身に付けさせるため、共通の指導事項である「家庭学習のてびき」を活用し、計画的・継続的な家庭学習（宿題や一人勉強）を定着させる。

短期経営目標 2 : 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善（授業力の向上）を推進する。

- ①具体的方策 1 : 思考力・判断力・表現力を高めるため、自力解決する問題解決学習と、（話し合い活動を含む）学び合い活動を取り入れた授業の実践を積み重ね、「学び合い」の部分の基本型づくりに挑戦する。
- ②具体的方策 2 : ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりへ挑戦する。

成果指標



No.	評価学年	評価対象	評価指数
1	全学年	単元終了後の基礎・基本から思考力・判断力・表現力までを評価できるテスト	個人得点 80点
2	5・6年生	東通村総合学力調査	① 29年度全国到達率100%未満の学級は全国到達率100% ② 29年度全国到達率100%以上の学級は全国到達率前年度+1%

3	6年生	全国学力・学習状況調査	① 国語A正答率80% 国語B正答率55% ② 算数A正答率80% 算数B正答率48%
4	5年生	青森県学力・学習状況調査	青森県到達率100%
5	全学年	校内漢字大会	個人得点 80点 学級平均80点
6	全学年	教研式標準学力検査CRT	① 29年度全国到達率100%未満の学級は 全国到達率100% ② 29年度全国到達率100%以上の学級は 全国到達率前年度+1%

(2) 中期経営目標2「規範意識の向上」

個に同化を求める集団から、個が独自性を保持しつつ他と協調できるような集団づくりへと視点を変えましょう！

短期経営目標1： 集団生活や社会生活の「ルール」(守るもの)、「約束」(果たすもの)などの規範に基づき、主体的に判断し、行動しようとする態度を育てる。

- ①**具体的方策1：** 学習規律を徹底し、学びに向かう姿勢をしっかりと身に付け、互いに高まり合おうとする学級風土を創り上げる。
- ②**具体的方策2：** 子どもに名札を着用させ、全教職員が全ての子どもを名前で呼ぶ学校風土を創り上げる。
- ③**具体的方策3：** 挨拶(返事も含む)・言葉遣いを徹底し、時と場に応じた人との接し方を身に付け、温かい雰囲気醸し出す学校風土を創り上げる。
- ④**具体的方策4：** 廊下歩行を徹底し、安心・安全な学校風土を創り上げる。

短期経営目標2： 特別活動の自発的、自治的な活動を推進し、集団の中で共に生きる力を育てる。特に話し合いや共同学習・作業等、仲間とふれ合い、関わり合う活動を意図的に数多く設定することで、感化し合う(他者に共感を与え、互いの考えや行動に自発的に働きかける)学級・学校風土にする。

- ①**具体的方策1：** 集会活動や児童会行事では、意図的に仲間とふれ合い、関わり合う楽しさを味わうことのできる活動を数多く設定する。

成果指標



※ 「評価指数」は、各分掌や担当が設定することになるが、「評価対象」は、年度末に実施する学校評価や教育課程アンケート、これまでも実施している各種教育活動後の反省、また、各学級・学年・分掌等が提案する計画に記載する評価観点に基づいた評価、さらに、各種アンケートや調査等をイメージする。

No.	評価者 (例)	評価対象 (例)	評価指数 (例)
1	全学年	評価やアンケート	関係項目肯定 80%
2	全保護者	評価やアンケート	関係項目肯定 80%
3	全教職員	評価やアンケート	関係項目肯定 80%

(3) 中期経営目標 3 「強い意志の育成」

取組の中心が肥満対策と食に関する指導だったが、生活リズムの改善に比重を置いた取組に変えましょう！

短期経営目標 1： 困難な課題にも主体的に取り組み、逃げない強い意志を育て、課題を乗り越えさせ、達成感を味わわせながら自分に自信をもたせる。

- ①具体的方策 1： 休み時間は、運動と外遊びが当たり前の学級・学校風土を創り上げる。
- ②具体的方策 2： 休み時間のマラソンと縄跳びを継続し、励まし合いながら、競い合いながら体力づくりに取り組む学級・学校風土を創り上げる。

短期経営目標 2： 健康の保持・増進を目指し、学習や生活の型（姿勢）から入り、体位・体格への関心を高める。

- ①具体的方策 1： 「立腰^{りつよう}」を指導し、姿勢がもたらす効果を実感させる。

成果指標



※ 「評価指数」は、各分掌や担当が設定することになるが、「評価対象」は、年度末に実施する学校評価や教育課程アンケート、これまでも実施している各種教育活動後の反省、また、各学級・学年・分掌等が提案する計画に記載する評価観点に基づいた評価、さらに、各種アンケートや調査等をイメージする。

No.	評価者 (例)	評価対象 (例)	評価指数 (例)
1	全学年	評価やアンケート	関係項目肯定80%
2	全保護者	評価やアンケート	関係項目肯定80%
3	全教職員	評価やアンケート	関係項目肯定80%

(4) 中期経営目標 4 「信頼と協働体制の確立」

全教職員が「対話」と「協働」を基調に、様々な教育課題に組織的・機動的に対応する体制を確立しましょう！

短期経営目標 1： 通常の学級に在籍する学習面や行動面で著しく困難さがある子どもに必要な支援（二次的支援）を行う過程で、支援教室の導入や運営の必要性を保護者や地域はもちろん、教職員にも理解してもらい、連携した対応（指導や体制）の充実を目指す。

- ①具体的方策 1： 支援教室を設置し、子ども、家族、指導者の困り感を軽減する。

短期経営目標 2： 学年主任・分掌主任を通しての「報告・連絡・相談・確認」を日常化し、問題発生時に情報が直ちに校長・教頭に伝わる危機管理システムの確実な機能を目指す。

- ①具体的方策 1： 主任→管理職という情報伝達経路を徹底し、危機管理システムの日常的な機能を目指す。
- ②具体的方策 2： 欠席した子どもへの共通の対応として、「1日休んだら電話、2日続けて休んだら家庭訪問」を実施する。

短期経営目標 3： C（評価）A（改善）P（計画）D（実行）サイクルを日常化する。

- ①具体的方策 1： 「改善点」を明確にした（読んで・見てわかる）計画を作成する。

短期経営目標 4： 学校づくりの重要なパートナーである保護者や地域はもちろん、こども園や中学校にも「見えやすい」「行きやすい」学校を目指す。

- ①**具体的方策 1：** 保幼小中の連携を推進・強化させる。
- ②**具体的方策 2：** 地域の教育力の活用を継続・推進・充実させる。
- ③**具体的方策 3：** 学校の教育活動を地域に公開する。

成果指標



※ 「評価指数」は、各分掌や担当が設定することになるが、「評価対象」は、年度末に実施する学校評価や教育課程アンケート、これまでも実施している各種教育活動後の反省、また、各学級・学年・分掌等が提案する計画に記載する評価観点に基づいた評価、さらに、各種アンケートや調査等をイメージする。

No.	評価者 (例)	評価対象 (例)	評価指数 (例)
1	全学年	評価やアンケート	関係項目肯定80%
2	全保護者	評価やアンケート	関係項目肯定80%
3	全教職員	評価やアンケート	関係項目肯定80%